

パンフレットの利用にあたって

- 四季によって移り変わる自然を感じてみましょう。
- 鹿島の生き物を探して、観察してみましょう。
- 動物や植物は、傷つけたり採ったりしないようにしましょう。
- 自然に親しむためのパンフレットは忘れず持ち帰りましょう。
- 自然を知って、みんなで自然環境を守っていきましょう。



鹿島渡船利用案内

〈お問い合わせ先〉
渡船待合所 ☎089-992-1375

鹿島渡船運航時刻表

北条発	4月～10月	11月～3月
7時～17時	03分、23分、43分	03分、33分
18時～20時	03分、33分	03分、33分
21時	03分*、33分*	

鹿島発	4月～10月	11月～3月
7時～17時	00分、20分、40分	00分、30分
18時～20時	00分、30分	00分、30分
21時	00分、30分*	00分
22時	00分*	

※21時03分、21時33分の北条発、
21時30分、22時00分の鹿島発の便は
7月第2土曜日から8月31日のみ運航します。



周遊船運航時間

期間	時間	予約
7月第2土曜日～8月31日	10時37分～日没まで	予約の必要はありません。
上記以外	10時37分～日没まで	要予約

※2名以上で運航。一周約30分。

北条鹿島博物展示館 (愛称:かしまーる)

〈お問い合わせ先〉
☎089-993-1026

開館時間	8時30分～17時30分
休館日	無休

発行:松山市

協力:NPO法人森からつづく道・小川次郎・風早活性化協議会
お問合せ

- ・生物多様性に関すること
環境モデル都市推進課 TEL 948-6434 FAX 934-1861
- ・希少動物に関すること
環境指導課 TEL 948-6439 FAX 934-1812
- ・鹿島の渡船・施設に関すること
観光・国際交流課 TEL 948-6558 FAX 943-9001
- ・北条地域の地域振興に関すること
まちづくり推進課 TEL 948-6991 FAX 934-1821

このパンフレットの印刷において必要な電力の100パーセントを松山市の太陽光発電施設で発電したグリーン電力を使用しました。
Printed by SEKI Co.,Ltd.

発行年月日:令和4年2月



Microlepia strigosa



Graphium sarpedon



P. frutescens var. citriodora



Narathura bazalus



Balcanocerus myroxyli

自然観察マップ

北条

鹿島かしま



Cervus nippon



Ardea cinerea



Gekko tawaensis



Arisaema ringens



おいでよ!鹿島

鹿島ってどんな所?

鹿島は、松山市北条港の沖合い約400mにある周囲1.5kmの小島。島全体が瀬戸内海国立公園に指定されている。島の大部分はクスノキなど照葉樹林で覆われており、林内にはナンゴクウラシマソウやムサシアブミなど多種の暖地性植物が生えている。古来より島の名の由来となった野生のニホンジカ(県指定天然記念物)が生息していたが、現在は、全頭、シカ園で保護されている。標高114mの山頂までは登山道が整備されており、山頂展望台からは忽那諸島を一望できる。

鹿島の植物とシカ

野生シカが生息していた当時の鹿島のクスノキやシイの木は、よく見ると、切りそろえたように高さ約1.5m以下には枝葉がなかった。それは、鹿が根元の樹皮をはがして食べた結果であり、その高さをディアラインと呼ぶ。登山道や周遊道で普通に見かける植物のうち、シカの口が届く範囲のもので残っているのは、ナンキンハゼやカッコウアザミなどシカが食べない外来種であった。現在、野生のシカの餌不足や島の環境を食害から守るため、鹿園で島内のシカを全頭保護し、森林生態系の保全を図っている。

おいでよ！鹿島

ムサシアブミ

低地の照葉樹林内に生えるサトイモ科の多年草。クスノキ林内に点在。3枚に分かれた大きな葉とヘビの鎌首のような花が特徴。花期は3～5月。秋には真っ赤な果実が実る。和名は花の形を鐙（あぶみ）（馬の鞍（くら）に垂らして足をかけるもの）に例えたもの。有毒。



クスドイゲズキンヨコバイ

鹿島で発見されて新種となった体長が4mm前後のヨコバイ科の昆虫。体色は茶褐色でオスは黒みを帯び、メスは前羽に白色の斑紋がある。セミを小さくした姿をしており、セミと同様に口吻をクスドイゲ（海岸に生える樹木）に刺して汁を吸う。「横這」とは警戒した時に横にずれながら歩くことから。



イソヒヨドリ

とても美しい声で鳴き、オスは頭から胸、背にかけて深い青色をしている。消波ブロックや防波堤に止まり、あまり動かさずじっとしていることが多い。



フナムシ

ムシの名が付くが昆虫ではなく、分類上はエビヤカニと同じ甲殻類でダンゴムシに近縁。磯の岩場や防波堤で普通に見られるが、驚くと逃げ足は速い。ただし泳ぐのは苦手で水中に長時間いると溺れてしまう。藻や生物の死骸を食べる「磯の掃除役」。英名はwharf roach（埠頭のゴキブリ）。



タカヤマモリ

日本固有のヤマモリで、松山市のレッドデータブックに絶滅危惧種として掲載されている。鹿島では夜間に遊歩道を歩くときや柵の上などによく見かける。家屋に居るヤマモリはニホンヤマモリで平安時代以降に大陸から渡来した外来種と考えられている。ニホンヤマモリとは背面に大型の粒状の鱗（うろこ）がないことなどで区別できる。

アオスジアゲハ

幼虫の食樹はクスノキなどクスノキ科植物であることから、鹿島では初夏から秋にかけてアオスジアゲハを頻繁に見ることができる。アゲハチョウの仲間、羽は黒地に青緑色の縦模様が特徴。普段はすばしこく飛び回るが、水辺で吸水する時はじっとしているので観察しやすい。



ムラサキツバメ

暖地の照葉樹林にすむシジミチョウの仲間。羽を広げると長さ35～40mmで、後羽には尾状の突起がある。オスは全体が深い紫色に輝き、メスは黒地の中に鮮やかな青紫色が輝く。幼虫の食樹はマテバシイやシリブカガシ。幼虫は体からアリの好む液体を分泌し、アリはそれを得る代わりに幼虫を守るといって共生関係が知られている。



ハマヒョウタンゴミムシダマシ

海岸性の体長4～5mmほどの小さな甲虫。砂浜に漂着した流木や海藻などの下に生息し、腐植物を食べる。ヒョウタンのようにくびれた白っぽい体に黒褐色の十字架模様が入りきれいな虫だが、砂浜では見事な保護色となり、動かないと見つけにくい。



シカ

鹿島のシカはニホンジカで、体が小さく警戒心が強く人に慣れにくい。オスに毎年、春から夏にかけては柔らかい袋角が生え、秋に袋角はげ落ちて硬い角に代わる。現在、野生シカによる希少植物等の被食防止のため、鹿島のシカは、鹿園で全頭保護されている。



アオサギ

サギの仲間では最も大型。鹿島では登山口から少し登った所によく営巣している。釣り人から魚を横取りしようと防波堤のあたりにいることが多い。繁殖期にはくちばしが鮮やかなオレンジ色になる。



クスノキ

暖地に多い常緑高木で、古い時代に中国大陸から渡来した。鹿島でもっとも多い樹木。葉を揉むと特有のいい香りがある。長命な木で神社などには巨木が見られる。材から防虫剤となる樟脳（しょうのう）が採れるので植林もされていた。



ナンゴクウラシマソウ

暖地の照葉樹林内に生えるサトイモ科の多年草。クスノキ林内に点在している。葉は13～15枚に分かれて扇型に広がる。花期は4～5月。花は暗紫色で、その中から花の一部が突き出て高く伸び上がり、さらに先は垂れ下がる。これを浦島太郎が持っている釣り竿に例えて浦島草という。有毒。

ハッコウアザミ

キク科の一年草。熱帯アメリカ原産の外来種で、愛媛県ではかなり珍しい植物だが、鹿島ではシカが食べない植物のため、あちこちで群生している。夏から秋にフサフサした白い花を多数つける。



レモンエゴマ

高さ60cmほどになるシソ科の一年草。海岸沿いなどに群生。葉はシソにそっくりで、揉むと爽やかなレモンの香りがするが、シカはその香り成分を嫌って食べ残している。花期は夏から秋。エゴマは東南アジア原産で採油用や薬用として栽培されている。



イシカグマ

暖地に生えるシダ植物。シカが食べない植物のため鹿島ではクスノキ林内に群生しているが、鹿島以外では比較的稀。葉は2回羽状に分裂し、秋には葉の端に小さな孢子がつく。和名は「石のごろごろした所に生えているシダ」の意味らしい。

